

富西の目指す生徒像（普通科）

地域社会に貢献できるグローバル人財

探究する力

自ら問いを持ち、粘り強く解決しようとする力

1 問いを立てる力

2 論理的思考力

3 情報スキル

創造する力

既存の枠にとらわれず、自分なりの答えを形にする力

4 イノベーション

5 観察力

6 質問力

共創する力

他者と対話し、異なる意見を尊重しながら新しい価値を共に作る力

7 協働する力

8 多言語対話

9 多様な視点

項目	Lv.1（スタート）	Lv.2（挑戦中）	Lv.3（標準）	Lv.4（工夫）	Lv.5（自走）
1. 問いを立てる力	与えられた問いに答えようとしている。	提示された課題から、具体的な疑問点を見つけようとしている。	目的達成のために、自分で具体的な「問い」を立てようとしている。	背景を深掘りし、より鋭い「問い」へと磨き上げようとしている。	事象の本質を突き、解決すべき「独自の問い」を自ら立てようとしている。
2. 論理的思考力	思いつきで判断せず、情報や事実を目を向けようとしている。	事実と意見を区別し、根拠（データ等）を探そうとしている。	根拠を明確に示し、順序立てて説明しようとしている。	複数の意見を吟味し、自分の論理を組み立て直している。	多角的な視点から情報の真偽を判断し、明快な論理を再構成しようとしている。
3. 情報スキル	ツールの使い方を学び始めている。	指示に従い、ツールを使って記録や作業を行おうとしている。	CanvaやExcel等を使い、情報を図式化・整理しようとしている。	相手に伝わるよう、見栄えや構造を工夫して表現しようとしている。	目的や相手に合わせ、最適なツールを自ら選び発信しようとしている。
4. イノベーション	既存の方法や手順を丁寧にたどろうとしている。	既存の型を理解し、自分なりの工夫を加えようとしている。	基本的な型を忠実に実行し、着実に成果を出そうとしている。	自分なりに分析し、既存の方法を改善・工夫しようとしている。	既存の枠組みにとらわれず、新しい解決策を創ろうとしている。
5. 観察力	対象の表面的な特徴や、個別の情報を捉えようとしている。	変化の理由を考え、既習事項との共通点を探している。	情報を科学的な視点と結びつけ、事実を正確に捉えようとしている。	情報から法則を見いだして説明しようとしている。	情報を諸課題と結びつけて整理しようとしている。
6. 質問力	事実の確認や「はい・いいえ」のやり取りにとどまっている。	聞きたいポイントを自分なりに整理して質問している。	「なぜ」や「別の場合」等の詳細を引き出す質問をしている。	相手の意図を引き出し、周囲の考えを広げるきっかけを作っている。	本質を突く問いを投げ、対話から新しい価値を生んでいる。
7. 協働する力	自分の意見を持たず、班員の意見に同調している。	自分の考えを言葉にし、周囲に伝えようとしている。	共通の目標に向かって、役割を果たし協力しようとしている。	お互いの意見を尊重し、建設的な議論を深めようとしている。	多様性を活かし、チームの力を最大化させて成果を出そうとしている。
8. 多言語対話	覚えた単語を繋いで話そうとしている。	定型的な表現を使い、基本的なやり取りをしようとしている。	英語などを用いて情報を得たり、自分の考えを表現しようとしている。	相手に合わせた表現を選びICT等をつかいながらやり取りを深めようとしている。	母語以外で議論や発信に挑戦し、多様な人と関わろうとしている。
9. 多様な視点	自分の意見を通すことに集中している。	異なる意見に耳を傾け、背景を知ろうとしている。	違いを認め合い、お互いが歩み寄れる点を探そうとしている。	異なる視点を統合し、一貫性のある解決策を提示しようとしている。	多様な価値観を統合し、「納得解」を生み出そうとしている。

富西の目指す生徒像（理数科）

地域社会に貢献できるグローバル人財

探究する力

自ら問いを持ち、粘り強く解決しようとする力

1 問いを立てる力

2 論理的思考力

3 情報スキル

創造する力

既存の枠にとらわれず、自分なりの答えを形にする力

4 イノベーション

5 観察力

6 質問力

共創する力

他者と対話し、異なる意見を尊重しながら新しい価値を共に作る力

7 協働する力

8 多言語対話

9 多様な視点

評価項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1. 問いを立てる力	与えられた数理的・科学的な問いに指示通り答えようとしている。	データや現象から、矛盾点や規則性に関する疑問（仮説のタネ）を見つけている。	目的達成に向け、変数を意識した検証可能な「科学的問い（仮説）」を自ら立てている。	科学的原理や既知の数理モデルを深掘りし、「問い」を精度高く洗練・修正し続けている。	自然現象や社会課題の本質を突き、新たな知見やアプローチを導く「独自の問い」を構築している。
2. 論理的思考力	直感に頼らず、与えられた数理データや事実を目を向けている。	事実（実験結果）と考察を区別し、統計的な根拠や数理データを探している。	因果関係や論理構造（数式による証明など）を明確に示し、順序立てて説明している。	複数のデータや数理モデルを多角的に吟味し、誤差因子を考慮して論理を再構築している。	データの真偽や数理の妥当性を批判的に検証し、一般化された明快な科学的理論・モデルを構築している。
3. 情報スキル	実験器具や計算・プログラミングツールの基本操作を学び始めている。	指示に従い、ツールを使ってデータの記録、グラフ化、基本計算を行っている。	python等を用い、統計解析や数理シミュレーション等で情報を適切に処理・可視化している。	根拠が正確に伝わるよう、グラフの選択、エラーバー表示、数式表記などを工夫している。	目的に応じて最適な解析ツールやアルゴリズムを自ら選択・構築し、高度なデータ発信をしている。
4. イノベーション	既存の方法や手順を丁寧にたどろうとしている。	既存の型を理解し、自分なりの工夫を加えようとしている。	基本的な型を忠実に実行し、着実に成果を出そうとしている。	自分なりに分析し、既存の方法を改善・工夫しようとしている。	既存の枠組みにとらわれず、新しい解決策を創ろうとしている。
5. 観察力	対象の表面的な特徴や数値（色の変化や明らかな増減）を記録している。	規則性を探るため、定量的（数値）および定性的（状態）な視点から細部を観察している。	科学的な視点（対照実験の条件、変数の変化など）に基づき、的確に観察・測定している。	観察から予期せぬノイズや特異な法則性（外れ値の意味など）を見出し、再検証に繋げている。	微細な変化を課題の本質と結び付け、新しい科学的法則の発見やブレイクスルーに繋げている。
6. 質問力	事実の確認や「はい・いいえ」のやり取りにとどまっている。	聞きたいポイントを自分なりに整理して質問している。	「なぜ」や「別の場合」等の詳細を引き出す質問をしている。	「なぜ」や「別の場合」等の詳細を引き出す質問をしている。	本質を突く問いを投げ、対話から新しい価値を生んでいる。
7. 協働する力	自分の意見を持たず、班員の意見に同調している。	自分の考えを言葉にし、周囲に伝えようとしている。	共通の目標に向かって、役割を果たし協力しようとしている。	お互いの意見を尊重し、建設的な議論を深めようとしている。	多様性を活かし、チームの力を最大化させて成果を出そうとしている。
8. 多言語対話	覚えた単語や簡単な表現を使って、伝えようとしている。	定型的な表現を用いて、基本的なやり取りや情報交換を行っている。	英語などを用いて情報を収集し、自分の考えや研究内容を簡単に説明している。	相手や場面に応じて表現を工夫し、探究活動や研究内容について質疑応答や意見交換を行っている。	英語などを用いて研究成果や考察を論文にまとめ、国内外の人々に発信している。
9. 多様な視点	自分の意見を通すことに集中している。	異なる意見に耳を傾け、背景を知ろうとしている。	違いを認め合い、お互いが歩み寄れる点を探そうとしている。	異なる視点を統合し、一貫性のある解決策を提示しようとしている。	多様な価値観を統合し、「納得解」を生み出そうとしている。